

## 曲目解説

### ●カサド 親愛の言葉 (5分)

作曲者のガスパール・カサド (1897-1966) はスペイン出身のチェリスト・作曲家で、同じくスペイン出身の偉大なチェリスト、パブロ・カザルス (1876-1973) にパリにおいて師事しました。「親愛の言葉」は、チェロ用の曲の代表的な小品で、1917年-20年の間に完成し、師のカザルスに贈られました。(この当時、カサドは故郷のカタロニアに戻っていました。) 楽譜には「わがもっとも親愛なるカザルス先生へ」と書かれているとのこと。カサドとカザルスはスペインの中でも同じカタロニアの出身なので、この曲の中にはカタロニアの民謡調が取り入れられ、師への追慕の感情を表現しています。

今日はチェロ用に書かれた楽譜を、そのままホルンで演奏します。

### ●ヴィトマン ホルンソロのためのエアー (9分)

イェルク・ヴィトマンは1973生まれのドイツの作曲家/クラリネット奏者で管楽器のための作品も多数書いています。ホルンソロのためのエアーは2005年の作品です。無調の旋律が背後のピアノと共鳴して美しい残響音を残し、空間音響の楽しさを味わうという趣向の、コンサート米子では珍しい現代音楽でしょうか。

### ●ベートーヴェン ホルンソナタ へ長調 (15分)

ベートーヴェン (1770-1827) の初期の時代の1800年に作曲されたホルンとピアノのための二重奏曲です。交響曲第1番とほぼ同じ頃に初演されています。

第1楽章 Allegro moderato 4/4拍子 へ長調

第2楽章 Poco adagio, quasi andante 2/4拍子 へ短調

17小節とごく短い楽章で、休みなく第3楽章に移ります。

第3楽章 Rondo, allegro moderato 2/2拍子 へ長調

### ●ホルスト ジュピター (編曲：福川 伸陽) (9分)

イギリスの作曲家グスタブ・ホルスト (1874-1934) の代表作で7曲からなる管弦楽組曲「惑星」の中の最も有名な第4曲「木星」を福川さん自身が編曲して演奏します。原曲の管弦楽版でも、主要な旋律はほぼホルンが吹いている曲なので、ホルン独奏への編曲もなるほどとうなずけます。冒頭の旋律

Allegro giocoso  
Horn in F  
f molto pesante

The image shows a musical score for Horn in F. The tempo is marked 'Allegro giocoso' and the dynamics are 'f molto pesante'. The score consists of a single line of music on a treble clef staff with a key signature of one sharp (F#) and a time signature of 2/4. The melody is characterized by a strong, rhythmic pattern of eighth and sixteenth notes.

中間部の旋律は歌手の平原綾香さんが歌詞を付けて歌い、大ヒットしました。

Andante maestoso  
mf

The image shows a musical score for Horn in F. The tempo is marked 'Andante maestoso' and the dynamics are 'mf'. The score starts at measure 25 and consists of a single line of music on a treble clef staff with a key signature of one flat (Bb) and a time signature of 3/4. The melody is slower and more melodic, featuring a mix of quarter and eighth notes.

## ●ウエストサイドストーリー (40分)

アーサー・ローレンツ脚本、レナード・バーンスタイン音楽、スティーヴン・ソンドハイム歌詞の、シェークピアの“ロミオとジュリエット”の舞台を現代のニューヨークに置き換えたブロードウェイ・ミュージカルで1957年初演、1961年には映画化されています。

作曲者のバーンスタイン(1918—1990)は交響曲等も書いていますが、ウエストサイドストーリーを超える人気を得た作品はありません。

下記の12曲をホルンとピアノで演奏し、その間のストーリーの流れは福川さんのナレーションで進行します。

### Prologue (プロローグ)

ポーランド系アメリカ人の少年非行グループ(ジェッツ)と、新参のプエルトリコ系アメリカ人の少年非行グループ(シャークス)が、なわぼりを巡って争っている場面。

### Something Coming (サムシングズ・カミング)

主人公のトニー(ジェッツの一員)がダンスパーティに行く前に、素晴らしい「何か」が確かに今晚来るかもしれないと歌う場面。

### Blues (ブルース)

体育館でダンスをする場面。

### Mambo (マンボ)

体育館のダンスパーティーでジェッツとシャークスが踊っていて、マンボのリズムに乗ったダンス合戦になる場面。

### Maria (マリア)

その渦の中に現れたトニーはマリア(シャークスのリーダーの妹)と出会い、2人は瞬く間に恋に陥る。マリアが帰ったのち、トニーは一人夢見心地で、マリアの名を幾度も口にして称える場面。

### Tonight (トゥナイト)

トニーとマリアが彼女の家の非常階段で互いの気持ちを確かめあう場面。

### America (アメリカ)

美しい故郷(プエルトリコ)を懐かしむ少女と、故郷を嫌悪しアメリカを称える他の少女たちが歌いあう場面。

### One hand one heart (ワン・ハンド、ワン・ハート)

トニーとマリアが結婚式の真似事をしてお互いの愛を再確認する場面。

### Rumble (ランブル)

ジェッツとシャークスの決闘の場面。

### I feel pretty (アイ・フィール・プリティ)

マリアが私はなんてかわいいんでしょうと弾けるよろこびを歌う場面。

### Somewhere (サムホエア)

トニーとマリアがどこかに僕たちの居場所があるはずだと歌うと、皆が仲良く暮らす夢の世界が現れて2人を包み、オフステージの女声が皆が仲良く暮らせる世界がどこかにある、そこへ行こうと歌う場面。

### Finale (フィナーレ)